

様式第2（第9条関係）

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和7年 11月11日

犬 山 市 議 会

議 長 大 澤 秀 教 様

議員名 鈴木 伸太郎

下記のとおり、先進地調査等の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和7年 10月21日(火)～10月22日(水)
(2) 場 所	東京・横浜
(3) 形 態	会派 () : その他 (鈴木のみ)
(4) 内 容	展示会「図書館総合展」 まちライブラリー他 報告書別紙
(5) 成果・提言	報告書別紙



出張報告書 図書館総合展 令和7年10月21日～10月22日

楽田小学校内にある、市立図書館楽田分館「つばさ」、以前から利用者増について方策を提案してきたが、なかなか実績に繋がらない。また、最近近隣自治体で図書館の新館がオープンし、集客施設として賑わいを見せている一方、犬山の図書館本館は施設、サービスの改善が遅れている。そのような課題解決のヒントを求めて展示会を訪問した。

併せて、「まちライブラリー」等の現場を数件訪問した。

○図書館総合展 パシフィコ横浜

(株)図書館流通センターが主体となっている展示会。犬山市立図書館も取引がある事業者で、犬山市の担当者とも意見交換、老朽化、最近のニーズへの対応、楽田分館の課題等、市立図書館のクリアすべきテーマを議論、市民としての要望意見を先方に伝えることができた。私も先方担当者も同じような課題認識で、将来の移転建て替え、分館の活性化に向けてスムーズに動き出せそうな気配。

展示会の総合的な見解は以下のとおり。

AI、電子図書、リカレント教育、地域の「知のインフラ」としての図書館の役割など、図書館を取り巻く環境もどんどん変化している。その中で、変えてはいけない公立図書館の基本コンセプトは大切にすべき。

以前、市議会でも提案したデジタルアーカイブの廉価版が出品されていた。白帝文庫、市史料館に眠る貴重な歴史資産を公開するのに有効。

大学の公開講座を検索できるシステム、市民のリカレント教育、市議会議員の学びの場としても有効。

図書館を使った調べ学習「地域コンクール」の提案。楽田小学校内の「つばさ」での展開は有効。

ボードゲーム他、図書館内でさまざまな催事を展開する提案ブースあり。その他、会場では音楽ライブ、地域連携、読み聞かせ、映画鑑賞等の提案在り。先日民生文教委員会で訪問した高梁市立図書館でもヨガ他催事を展開していたが、このような催事による話題作りは、民間事業者の集客ノウハウを生かすべき。

○超図書館総合研究所 文京区茗荷谷

(株)図書館総合研究所が新たにスタートさせたまちライブラリー。文京区茗荷谷という、都内でも有数の文教ゾーンに立地し、ニーズも高いと思われる。「本を通じて人が出会う」をコンセプトにした実験的なスペースで、図書館というよりコミュニティスペースといった感じ。生活に密着した図書スペース、コミュニティスペースの存在は、その地域の文化度

を上げる効果があると思われる。3Dプリンター、レーザー加工機なども設置、イベントやワークショップも開催されている。

楽田のふれあい図書館「つばさ」でも、ワークショップを定期的に行き、人を呼ぶ図書館に变身させることが可能と感じた。

○J&L 北区十条

埼京線十条駅前再開発に併せて区が設置したコミュニティスペースにある「図書館的」スペース。300坪ほどの館内、半分ほどに図書の開架棚が並び、壁面も図書。来館者は自由に閲覧している。本来は図書館ではなく、書籍の貸し出しは行っていないが、区立図書館の窓口として、区立図書館の書籍の貸し出し返却は行っている。駅前再開発ビル内であり、区や都のサービスセンター、スーパーなどと同居しており、利用者が多い。スペースの奥に、3Dプリンター、製本機、ミシン等を設置、定期的にクラフトイベントや教室を開催、また個人団体にも時間貸ししている。

図書館ではないが、図書と地域住民を繋ぎ、地域の「知の拠点」としての機能を発揮できる、新しいコンセプトの公共施設と言える。

○旅の図書館 港区青山一丁目

日本交通公社が運営する、旅行、地域情報等に関する専門図書館。予約制、無料で利用可能。

1階と地下の2層、計100坪くらいの規模、閲覧スペースが2/3を占める。訪問時は、サラリーマン風、研究者風、3名が利用していた。館内職員によると、趣味・仕事・研究等、幅広い利用者がいて、夏休みなどは閲覧室が混雑するという事。昔の時刻表、旅行関係の雑誌はもちろん、地域のまちづくり情報誌なども幅広く揃えており、全国の自治体の取り組みなども調べられる。その後調査したら、「専門図書館」はこの港区内に気象庁・航空・国際文化・食・人権・外交・化粧品・鋳物・男女平等参画他、15か所以上が存在している事がわかった。多くは企業、関連団体が運営している図書館。修学旅行などでも訪問できるので、利用価値は高そう。

楽田ふれあい図書館に、例えば、小牧長久手の戦いの専門図書コーナーを設けたりすることで、同館の活性化につながるかもしれない。このような専門図書館も情報発信、知の拠点として大切な機能を発揮していることが判った。

○まちライブラリー@南町田グランベリーパーク

南町田グランベリーパークは、東急田園都市線南町田グランベリーパーク駅に直結した、東急電鉄が開発した巨大ショッピングモール。駅ホームからまるでテーマパーク入場口のような誘導装飾で圧倒される。その巨大モールの一角、隣接する町田市営鶴間公園に隣接した場所に設置された「まちライブラリー」。気軽に立ち寄り本を通してさまざまな人や文化

に触れられる「みんなの居場所」を目指している。内装は木調で落ち着いた雰囲気。訪問したのは休館日の夕刻6時頃だったが、なんとカウンターの貸し出し業務のみ休みで、閲覧や机は自由。高校生大学生が勉強をしている姿が目立った。

ここは、すべての書籍が市民からの寄贈されたもの。会員登録すれば貸出も行っている。会員間でさまざまなイベントも企画運営されている。

行政主体ではなく、民間の地域住民主体の図書館というスタイルの成功例として特徴的。犬山ではこの規模の図書館はちょっと難しいが、まちライブラリーはいくつかの場所で開設可能だと感じた。

○犬山市への提言

- ・楽田ふれあい図書館「つばさ」の活性化策として、イベント（読み聞かせ、ボードゲーム、落語、ヨガ、e-SPORT、天体観測・・・）を積極的に開催する。図書館職員の手を煩わせることなく、地域住民主体で運営する。
- ・同館の開館日を増やすため、司書不在の運営を研究する。貸し出し返却は利用者がおこない、レファレンスは、本館とつないだモニターを使ってサービスする。
- ・同館にミニ専門コーナーを設置する。
- ・まちライブラリーを市内で増やす活動をする。
- ・収蔵文化財等のデジタルアーカイブデータ作成、一般公開を提案する。

以上